

2020年5月24日(日) 希望聖書教会 礼拝説教アウトライン

「神の平安があなたを守る ～主にある喜び～」ピリピ人への手紙 4章 4～7節

日本同盟基督教団事務所 法人事務主事 河野優

はじめに

「いつも主にあって喜びなさい」これはとても有名な聖句の一つ。皆さんは「いつも喜んでいる」だろうか。イエス・キリストを信じる者の幸いは、いつも喜んでいられることにある。喜びこそ、主からの恵みであることを覚えつつ、この喜びを味わうために必要なことを教えられたい。

1. 何も思い煩わない

- ・いつも喜ぶためには「何も思い煩わないこと」が必要である。新型コロナウイルスの存在は、世界中に深刻な恐れと不安を与えており、心配は尽きることがない。心配事を抱えていると、それは雪だるま式に増えていき、周りが見えなくなってしまい、さらに心配が増えるという悪循環に陥る。
- ・思い煩いは、この世の様々な欲望や富の惑わしとともに「みことばをふさぐ」（マルコ 4:18-19 種蒔きのたとえ）ので、キリスト者にとってきわめて深刻な影響をもたらす。人は「神の口から出る一つひとつのことばで生きる」（マタイ 4:4）のであるから、思い煩いは命の危機をもたらす。
- ・だからこそ、「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」（1ペテロ 5:7）を覚えたい。

2. 私の心と思いを神に知っていただく

- ・神は私たちの思いも行いも、すべてご存知である（詩篇 139:1-4）。しかし、「言わなくとも分かってくれるだろう」と考えて祈ることをしないのであれば、それは怠惰に他ならない。私たちは「あらゆる場合に」「感謝をもって」、私の願いを神に知っていただくようにと勧められている。
- ・「何か小さな困ったことがあるとすぐに走って行き、母親に告げる子どものように、苦しみに遭ったら即座に御父のもとに走って行って、申し上げるがいい。あらゆることにおいて、あらゆる小さなことにおいてそうするがいい。」（C.H. スポルジョン）
- ・祈りを通して自分の心の思いを主に知っていただく事は、キリスト者にとって義務ではなく恵み・特権である。いつでもどこでも祈ることができる幸い、それをすべて主が聞いてくださる幸い、それが私の歩みを支える。

3. 神の平安に守られている私

- ・思い煩いを捨てて神の前にすべてをゆだねて祈るとき、神の平安が私をキリストにあって守ってくれる。キリストなしに救いはなく、平安もない。キリストの十字架によって罪赦され、もはや神の怒りの裁きのもとにはなく、神の恵みのうちにある。これに勝る平安はない。
- ・神の平安はキリストにあって「感謝と喜び」に溢れさせてくれる。パウロは獄中で書いたこの手紙で繰り返し「喜び」を語っている。キリスト者は順境でも逆境でも、いつでも主の御手を覚えて感謝し、祈りによる神との交わりを喜び楽しむことができることを、彼は身をもって証ししている。
- ・すべての心配を真実に神様の前に注ぎだして委ねて祈るならば、人知を越えた神の御手による守りがあることを確信することができ、感謝と喜びに溢れて安心して眠りにつき、新しい朝を迎えることができる。祈り・主の守りの確信・感謝と喜びという恵みの循環がここにある。

おわりに～主にある喜び～

心配を祈りに変え、日々の生活の中で祈りを通して神の守りと恵みを深く味わい、感謝と喜びに溢れて歩むことができるとは、何と幸いなことか。主にある喜びを互いに分かち合い、証ししていこう。